

夕張川かわら版

「夕歩道」とは
夕張川と流域住民をつなぐ
川の道です

夕歩道

平成21年 早春

其の
十四



国土交通省河川局河川環境課
課長補佐
舟橋弥生さん

◆基調講演

流域生態研究所
妹尾優二さん

1日目 シンポジウム

北海道の素晴らしい自然を子ども達に引き継いでいくことが課題となっています。夕張川流域でも川遊び体験活動など、いろいろな取り組みが行われており、それらを住民の協力・協働による川づくり結び付けていくために、シンポジウムが開催されました。



魚は豊水時に移動するなど、魚類の遡上能力や生態行動について話され、魚が利用しやすい魚道を作るためには、まず作り手が自然の川を理解する事が重要だと指摘されま



「魚類が遡上すると、漁業資源としてだけでなく教育資源になる」、「サケが帰ってくるまで放流活動を続けたい」など夕張川にサケ・マス復活させるための提言、「流域の連携は自治体職員がまず動くことで住民がついてくる」という、流域連携と住民参加を促すための秘訣にまで話が及ぶなど、今後の活動に弾みのつく内容でした。

問 夕張川クイズ

冬、魚達はどこにいますか？
夕張川も含め、北海道の川にいる魚達は、冬の間も川の中で生活しています。北海道の冬は寒さが厳しく、川も雪や氷に覆われます。そのような厳しい自然環境の中、魚達はどのような場所で冬を越すのでしょうか？
次の1～4の場所のうち、魚達が冬の間生活すると思われる場所を選んで下さい。（複数回答可）



※答えは4面

シンポジウムが開かれました。

夕張川自然再生計画

〇日時：平成20年10月24(金)・25日(土)
〇場所：1日目/栗山町いきもの里ふれあいプラザ
2日目/旧雨煙別小学校 雨煙別川上流

〇主催：栗山町八サンベツ里山計画実行委員会、社 栗山青年会議所、夕張川なんでも探検隊
〇後援：栗山町、栗山町教育委員会、NPOくりやま、栗山町いきもの里づくり推進協議会

◆パネルディスカッション

- 中田満洋さん 石狩川開発建設部江別河川事務所長
- 荒関若雄さん (財)石狩川振興財団振興部長
- 河村 博さん 北海道立水産孵化場副場長
- 鈴木紀元さん 栗山町教育委員会教育長
- 渡辺泰弘さん (社)栗山青年会議所理事長
- アドバイザー
舟橋弥生さん 国土交通省河川局河川環境課課長補佐
妹尾優二さん 流域生態研究所
- 進行
高橋 慎さん 栗山町八サンベツ里山計画事務局長



講師から魚卵放流の仕方を教わっています。



2日目は、旧雨煙別小に集合し、雨煙別川上流でサクラマスの卵を放流しました。



子ども達も魚卵放流に挑戦しています。



講師が、まず実際に放流しての手本を見せます。



雨煙別川上流で、みんな協力してがんばっています。



魚卵が流れてしまわないように、石を絡めています。



放流の魚卵。



サクラマスの魚卵です。

夕張川の生き物たち

コウモリ



ドーベントンコウモリ

空を飛べる唯一の哺乳動物
哺乳動物の中には、コウモリ以外にも空を飛ぶものにモモンガやムササビなどいますが、これらは「飛ぶ」といっても体の膜を広げて木から木へ飛び移る程度。鳥と同じようにはばたいて、自由に空を飛ぶことができる哺乳動物はコウモリだけなのです。



ぶら下がるコウモリ

なぜ、ぶらさがる？

コウモリは空を飛ぶために体重を軽くしました(例えば、アブラコウモリは、体重およそ6グラム、1円玉6枚と同じ)。そのため足の骨も軽くしたので、立って体重を支えきれなくなりました。逆さまになってぶら下がるほうが楽なのです。

コウモリは、たくさん食べる！

日本にいる小型コウモリは昆虫を食べています。1頭の小型コウモリが1日に食べる虫の量は、蚊くらいの大きさの昆虫にしておよそ500匹！コウモリがいなければ昆虫が増えすぎて困るのです。

コウモリの翼は、手なの？腕なの？

コウモリの翼は腕と手が変化したものといえます。この翼を「翼手(よくしゅ)」とも呼びます。



川と牛馬

流送(りゅうそう)川を利用した木材運搬

木材の運搬方法として森林鉄道が利用され始めたのは大正時代からで、それ以前は川の流れを利用する「流送(りゅうそう)」が行われていました。夕張川上流域においても、前号で紹介した「三菱大夕張鉄道」など鉄道が整備される前は、この流送で搬送拠点まで木材を運搬していました。また、栗山町では夕張川だけでなく、雨煙別川や阿野呂川でも流送していたと町史にあります。

豪快!!流送作業

森林の伐採が行われる上流では、川の水が少なく、そのままでは木材を流すことができません。そこで「堤流(ていりゅう)」を行います。堤流とは、川にせきをつくり水をため、その後水門を開き、一気に木材を流すというやり方です。

冬は馬そり運搬

流送を行うにしても、伐採場所から川までは何らかの方法で木材を運ばねばなりません。多くの場合、馬が活躍しました。木材をそりに載せて、馬に引かせる「馬そり」です。

今のような冬期は草や葉が少なく、雪と凍った地面によって木を痛めずに運搬できるため、木材の運搬に適していました。また、農作業もできないため、人や馬を集めやすいという一面もありました。



馬そりによる木材運搬。



散流の様子。



堤流の様子。

『第3回 川の学習に関する意見交換会』を開催しました。

〇日時：平成21年2月24日(火) 18:00~20:00
〇場所：栗山町カルチャープラザEki



意見交換会の様子。

現在、川での体験学習に使用されている手引書「たんけん夕張川学習ノート」の続編作成について話し合われました。

《これからの基本的な方針》

- 前提として
学習の手引書は、その作成にあたる人が、自ら川で実際に川体験し、その体験をもとに作成していく。(手引書の使い手が川を知らないため、まず川を学ぶことから始める)
- 方針1 次年度、数回の会合または、実習を実施する。
- 方針2 夕張川で行なわれている既存活動と組み合わせて、「体験実習」の場とする。
- 方針3 実習した成果が、今後の「川の学習手引書」づくりにつながるように工夫する。
- 方針4 RAC等、資格認定制度も利用する。

※RACとは、川に学ぶ体験活動協議会のことを英語でRiver Activities Councilといい、その頭文字をとってRACといいます。川での体験活動を支援・推進する全ての活動を時代に合わせて統合的に展開していくことがRACの活動です。

第17回

「夕張川流域会議」を開催しました。

○日時:平成21年2月20日(金) 14:00~16:00
○場所:江別河川事務所

今年度、夕張川で実施した環境調査や河川工事の報告、各団体の活動報告、河川清掃(流域が一体となって取り組む活動)の結果及び不法投棄の現状報告などを行い、意見交換しました。



会議の様子



環境調査や河川工事の報告

- ◆平成20年度 夕張川環境調査報告
⇒調査概要及び、魚類、植物、鳥類、両生類・爬虫類・哺乳類、陸上昆虫類、各調査結果
- ◆平成20年度 夕張川工事報告
⇒築堤工事、樋門改築工事、光伝送路管設置工事

委員からの意見

今回調査で、オオジュリン、ホオアカ等が確認されているが、これらの種は数がかなり減少してきている。今回確認された箇所は、それらの種にとって良い環境であるということも考慮して残してほしい。

イシカリワカサギは貴重種となっているが、各地の湖沼を詳しく調査すると意外と多く確認できる。

今年度調査で確認されたヒョウモンチョウは貴重な種で、ナガオカシロワレモコウを餌としている。また今回の調査箇所は夏をすぎるとオガシジミという、貴重種が出てくる可能性があるため、重要箇所として認識してほしい。



ヒョウモンチョウ



イシカリワカサギ



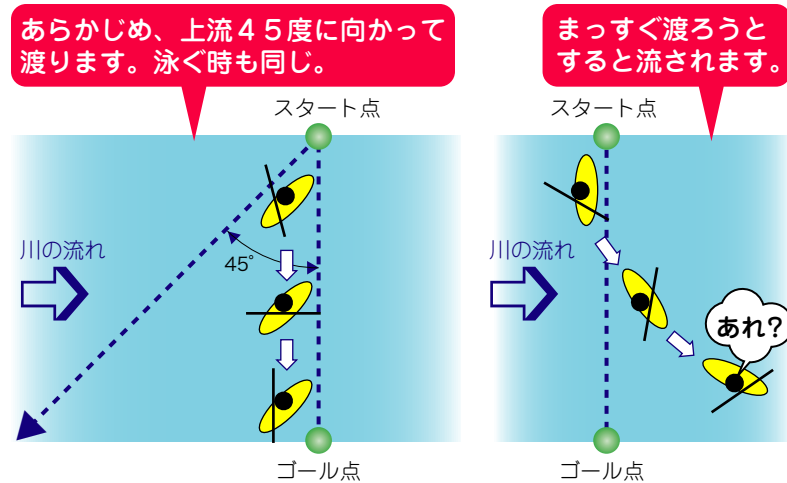
ノゴマ

川遊び入門

川を渡る時は、フェリーアングルで！

水辺にはまだ、雪が残っているのに「もう川遊びですか?」という声が聞こえそうですが、川に親しむ際の予備知識はシーズン到来前から身に付けることが大切です。

今回の川遊び入門は、「フェリーアングル」です。フェリーというのは、フェリーボートのフェリーで、「渡る」という意味、アングルは「角度」という意味、つまり川を渡る時の角度のことなのです。



各団体の活動報告

- ◆おっ鳥クラブ
・夕張川管内での探鳥会の案内。これまでの探鳥会での確認種の報告
- ◆栗山町八サンベツ里山計画実行委員会
・雨煙別川でのサケの放流活動の報告
・シンポジウム『夕張川自然再生計画』の開催概要の報告
・夕張川流域での川の総合学習支援(夕張市立のぞみ小学校、ホルカクルキ川)の報告
- ◆夕張川なんでも探検隊
・「夕張川塾」の開催概要の報告
・ヤリキレナイ川でのサケの稚魚放流活動の報告(由仁町立由仁小学校の総合学習の一環として実施)
・夕張川流域での川の総合学習支援(由仁町立由仁小学校、ヤリキレナイ川)の報告

委員からの意見

◆「おっ鳥クラブ」の報告について
採草地として占用されている河川敷は牧草だけになり、鳥類があまり観察できない。雑草が繁茂してくると観察できる鳥類が増えてくる。我々人間にとってきれいな場所というのは鳥にとっては都合のよい場所ではない。開発されて形が変わると鳥の数、種類も変化する。

◆小林酒造付近は、下流の堰の影響で水が停滞している。その結果土砂が堆積し、ハクチョウ、ヒシクイ等の休憩箇所になってきている。

◆「夕張川なんでも探検隊」の報告について

◆夕張川塾が開催される7月下旬は、年々川の水位が下がってきており、地形が変化している。

◆阿野呂川合流部は、川の状況・風景が毎年変わっている。今年は川流れ体験を行う場所に倒木があった。1年で変化するので活動箇所につけていく。

◆川の水が少なすぎると川の体験学習が中止となる場合もある。また、水位の低下で河床が露出し危険箇所が増えるなど、安全性の問題も出てくる。



(写真上):阿野呂川合流部より少し上流の地点。このすぐ先に倒木があります。
(写真下):阿野呂川を横切る形である倒木。この下が流れて削られ、深みができています。



小林酒造から望む夕張川。写真の橋は馬追橋。このあたりは流れがほとんどない。



その他に意見交換で出された意見

◆栗沢頭首工、長沼頭首工の改築については、流域が一体となり治水・利水・環境の両立を図るような川づくりの要望の気運が高まる必要がある。

◆ここ数年、夕張川は水が少なく、河岸の不安定化、河床の低下による岩盤の露出などが進んでいる。今後、急激に増水した時に川がどのような状態になるか不安である。

◆川端ダムの放流による水位の上昇で、川の活動が危険になることがある。増水による危険性の周知が必要である。

◆河床は年々下がっているため岩盤が相当出ており、河岸そのものも不安定になっている。河岸が不安定な状態のときに増水した水でダメージを受けることになる。

◆河川改修する際、最低限、低水路の幅だけは広げないでほしい。器が広がることによって今まで生息していた魚が生息できないことがある。

◆低水路を縮めると、流速が早くなり河床が低下する。低水路の中でも平水が流れる滞り筋ではなく、洪水時に流れる低水路の幅は広くした方が土砂がきちんとコントロールされていく。滞り筋を考慮しながら、水が増えたときに流速が早くならないような工夫が必要である。



夕張川・川の祭音会での河川清掃。

流域が一体となって取り組む活動

◆流域が一体となって取り組む活動について
⇒事務局より、今年度実施された河川清掃(流域が一体となって取り組む活動)の開催概要(今年度は2回開催)及び、清掃したゴミの集計結果を報告。また、不法投棄の実態の報告及び、その防止策の提案を行った。